留学生通信

フランスと日本の大学の違い

Some Differences Between French and Japanese Universities

ンドング メファネ　ステファン　ボリス
NDONG-MEFANE Stephane Boris
■2005 年 Université des Sciences et Technologies de Lille 大学
■主として行っている業務・研究
・有限要素法を用いた移流拡散現象の数値解析
■通学先
九州大学　大学院工学府　知能機械システム専攻　博士課程
（〒819-0395　福岡市西区元岡 744／E-mail：stephane@cm.mech.kyushu-u.ac.jp）

1 はじめに

私はアフリカのガボンから来た学生で，現在は九州大学大学院の博士課程に在籍し，計算工学の勉強をしている．

私はガボンで高校を卒業し，その後フランスの大学で学部，修士時代を過ごした．博士課程の学生として日本に来てからすでに 1 年経ち，普段の生活や学校教育の点でフランスと日本との数々の違いをこれまで感じてきた．

フランスでは，リール理工科大学（Université des Sciences et Technologies de Lille）で勉強してきた．リールという地はフランスの北部に位置し，ちょうどパリの北の方角にあたる．市街はそれほど大きくはなく，毎年多くの学生がフランス各地からリールに学びに来ている．

2 フランスでの大学生活の紹介

フランスの大学には日本の大学と比べて多くの外国人学生がいる．新学期は９月からで，1 年間の終わりは６月，もしくは 7 月初旬で，期末試験の期間（一般的には 1 箇月）によって異なる．夏休みは 2 箇月あり，博士課程の学生にも 2 箇月の休業期間が与えられる．日本では大学に入る際に選抜試験を受けるが，フランスでは特別な筆記試験等があるわけではなく，高校での成績と面接形式の試験で選抜される．

普段の生活は，午前 8 時頃から午後 6 時まで講義があり，その後は友人たちと食事をしたり家に帰ってから勉強したりする学生が多い．試験前であれば，図書館に行って勉強することも多い．

つぎに，フランスの大学の修士課程を紹介する．フランスでは修士課程の 2 年次に，これまでの成績と筆記試験の成績によって 2 種類の専門課程のどちらかを選択することになっている．

一つ目は，プロフェッショナル・マスターコースと呼ばれるもので，修士課程修了後に企業で働こうと考えている学生のための課程である．この課程では，実際に企業で使われている多くの商用ソフトを使う機会が与えられ，また 3 箇月間，企業でのインターンシップを経験する必要がある．

二つ目は，リサーチ・マスターコースと呼ばれるもので，今後も基礎研究や応用研究に取り組もうと考えている学生のための課程である．ここの課程では，理論に関する講義をさらに受けることになる．

図１　リール理工科大学の図書館

図２　リール理工科大学のキャンパスの様子

また，修士課程に在籍している間，１年次の６箇月間と，２年次の８箇月目までの期間で研究課題に取り組む．研究課題は，各部門の教授や研究者が計画したものの中から学生たちが選択する．

日本では大学祭というものがあるが，フランスでも同じような行事があり，毎年音楽祭やスポーツのイベントなどを学生の組織が中心となって催している．

3　卒業後

一般的に，プロフェッショナル・マスターコースを経た学生はインターンシップに参加した企業に就職するが，これは容易ではなく，実際には多くの場合，フランスの企業は大学（université）を卒業した学生を雇うことよりも，むしろ専門学校（grande école）を卒業した学生を雇うことが多いからである．また，リサーチ・マスターコースを経た学生にとっての状況も大変厳しいものである．就職したいと思ってもインターンシップも経験しておらず，その課程では実際に企業との接点を持つこともないからである．博士課程に進もうとする場合，大抵は生活をするうえで奨学金を必要とするが，奨学金を受け取れる学生はリサーチ・マスターコース 40 人のうち，わずかに２人だけである．したがって，この課程の多くの学生は外国の奨学金や博士課程の籍を探すことになる．

4　大学の講義の紹介

フランスの大学では，主に理論の講義と演習の時間がある．理論の講義では，先生が理論の説明をし，学生がそれぞれの専攻での基礎的な問題を解決するのに必要な基礎を教えてくれる．演習では，理論の講義を基に先生がいくつかの例題を示し，学生が実際に問題を解くという形式のものである．理論の講義では，受講する学生が多人数になることもあるが，演習は十数名といった少人数で行う．先生は学生に個別で指導したり，理論の講義に関する質問にも応じる．また，講義後に先生と学生で休憩時間をともにすることもある．

また，学生は修了時までに TOEIC（Test of English for International Communication：国際コミュニケーションのための英語能力テスト）で一定基準以上の点数をとる必要がある．その対策として，１年次から英語の講義を受けることができる．

ところで，日本に来て本当に驚いたことが一つある．それは，講義中に修士課程の学生が寝ていたり，ほかのことをしていたりしていることと，先生がそのことに関して何も言わず，講義を続けているだけという状況を見たときだった．フランスでは，居眠りをしていたり，講義以外のことに集中していることが許されず，もし居眠りをしていれば，講義を退席させられることも珍しくないのである．

5　おわりに

私は今，博士課程に在籍してるが，卒業後は日本で働きたいと考えている．フランスで就職先を探すのは難しく，ガボンで今の専攻を生かせる仕事を見つけられるとは思っていないからである．